



食の祭典

楽しみながら枕崎の食文化を学んだ

枕崎を「健康で生きがいを実感でき、人が豊かに交流する『食』を生かした健康都市」にしよう。今年7月から食に関する様々な事業が行われています。これは、NPOエコ・リンク・アソシエーション(下津公一代表)が、農林水産省の進める「にっぽんの食推進事業」のもと取り組まれているものです。「食の祭典」はこの事業の一環として行われました。



地元食材を使った家庭料理 180品がずらりと勢ぞろい

「食の祭典」が11月19日、妙見センターで開催されました。この祭典は、カツオやサツマイモをはじめ地域の食材を使った伝統料理やそれぞれの家庭に伝わるアイデア料理などを持ち寄りふれ合うことで、地域の「食」の文化を学ぼうと開催されたものです。



■左上:郷土料理やアイデア料理など、様々な180品が並び、■右上:健康に関するコーナーも賑わう。■左下:大人気の水ギョーザコーナー■右下:餅つき体験

会場には、市民の方々が持ち込んだ家庭料理、180点がずらりと並べられました。祭典が始まると、家族連れなど大勢の一般客が訪れ、箸と皿を手にとりそれぞれの料理を試食。料理にはレシビが掲げられており、気に入った料理のレシビを書き写している姿も見られました。

また、会場では中国研修生による水ギョーザ実演・試食や病院がつくる薬膳スープ試食、枕崎ぶえん鯉のにぎりずし、餅つき・そば打ちの体験コーナーなどもあり、おいしく味わい、楽しみながら食の大切さを学ぶ機会となりました。



鮎川ゆり子さん

この事業の一つ「食事バランスガイド」を作成されている、川辺地区栄養士会会長の鮎川ゆり子さんにお話を伺いました。

この事業に参加する機会を得て、昔から伝わる「地元の食」や産物の聞き取り調査を通し、この食文化をぜひ次世代の子どもたちへ残したいと考えるようになりました。

今、日本の食はいろいろな問題を抱えています。和食から洋食へ、手づくりから出来合いの惣菜や弁当、外食などにより、炭水化物たんぱく質、脂質のバランスが悪くなり、野菜不足も重なって生活習慣病が多くなりました。さらに朝食を主とする欠食の問題や夕食の時間がずれて夕食でなく晩食になるなど子どもたちを取り巻く食環境も悪化しています。

枕崎においても同様に肥満や生活習慣病の増加が問題になっていますが、私たちは推進事業の中で「枕崎版食事バランスガイド」を作成中です。このバランスガイドをぜひ皆さんの健康に役立てていただきたいと思います。

私たちの身体は、その人が食べた物でできています。バランスのよい食事で健康な身体、最後まで自分のことは自分でできる身体を維持しましょう。あなたの食事は大丈夫ですか？



「鹿筆豚」を通し、郷土愛を熱演

劇団「ぶえん」第5回公演「黒豚物語」

枕崎の市民劇団「ぶえん」の第5回公演、「黒豚物語」公演が12月10日、市民会館で行われました。地元の題材にこだわり、古き良き枕崎を再現してくれる劇団「ぶえん」のおよそ2年ぶりの公演ということもあり、会場はほぼ満員の観客で埋まりました。

この「黒豚物語」は、昭和30年代、肉質の良さで全国に名を馳せた枕崎の黒豚「鹿筆豚」を養育する家族を通して、家族愛や郷土愛をしみじみと表現した現代劇。

主人公・正夫はその昔、黒豚を細々と養育する家族の苦しい家計を助けるため、高校進学をあきらめて上京し、現在は黒豚料理専門店店主として成功していた。

ある日、その店にやってきた同郷の若者・順一は、黒豚生産者である実家の跡取りになってほしいという家族の思

いと裏腹にフリーターとなり、自分の人生は自分で決める話。

正夫は自分の家族・郷土への思い、それと離れなければならない辛さ、黒豚への熱い思いを語り始める…

この物語の一番の見せ場、主人公が家族と鹿籠駅で別れるシーン(右写真)では、少年時代の主人公を演じた衛藤茂晩さん(薩南工業高校2年)

が思いのこもった演技を見せ、会場からはすずり泣きの声も聞こえてきました。ラストシーンでは、井上昌

己さん演じる主人公が、鹿籠駅跡地で「桜の歌」を歌うと、舞台・観客席の天井から花吹雪が舞い、会場は大きな拍手に包まれました。

劇終了後は、枕崎の黒豚を全国に知らしめた生産者である森繁雄さんに、劇団から花束が贈られました。



森繁雄さんに感謝の花束を渡す劇団員。



旧・東和航空(株)が航空機格納庫を寄贈

枕崎空港の活性化に一役

旧・東和航空株式会社(株)の経営5社(株)中崎砕石・長野建設(株)・今又製建設(株)・豊留建設(株)・御ヘルステック)の代表が12月15日、市役所を訪れ、枕崎空港内にある航空機格納庫(写真)を市に寄贈されました。

同社は、平成8年から枕崎空港を拠点にチャーター便や遊覧飛行などを運航。平成15年4月に休止するまで、地域の活性化のためにご尽力いただきました。枕崎空港については、今日までに福岡大学や第一工大などの大学やグラ

イダー愛好家グループなど複数の団体が、グラウンドの操縦訓練を行なっているほか、今年の8月から11月にかけて、宮崎の航空会社が試験的に遊覧飛行やチャーター便の運航を行なっており、その結果が良かったことから、将来的にパイロット養成を中心とした事業の展開も期待されています。

今後とも寄贈された格納庫を有効に活用しながら、市民に親しまれる空港となるよう、枕崎空港の活性化に向け取り組んでまいります。